【新聞社企画・マーケティング部門】

新聞広告賞

北海道をコブしたいプロジェクト

北海道新聞社　営業局

2022年11月15日付

11月15日付

11月15日付

2023年2月3日付

◉広告主――出光興産、キッコーマン、サントリーホールディングス、日本たばこ産業、スカイマークほか
◉掲載状況――2022年11月1日、11月15日、2023年2月3日／全60段、全15段、カラー
◉広告活動――昆布新聞ほかコンテンツ制作、屋外広告、動画、ウェブサイト
◉企画――北海道新聞社、電通
◉制作――電通クリエーティブフォース、ジェ・シー・スパーク、アートファクトリー、ナカチカ、SUI、電通クリエーティブキューブ、マテリアル、nu
◉扱い――電通

◉企画の概要と選定理由

創刊80周年の記念事業として、北海道が全国の生産量の9割を占める昆布を題材に、漁獲高の減少や人手不足などに悩む水産業と地域を応援する広告企画を展開した。基幹産業である水産業と道民を「鼓舞」するという思いを企画タイトルに込めた。北海道産昆布に関する広告特集を掲載するとともに、11月15日の昆布の日に合わせ、昆布に食用インクで印刷した読んで食べられる「昆布新聞」を発行し、道内外で配布した。屋外広告やアンテナショップなどにも掲出したところ、テレビ番組やウェブメディアで取り上げられ、大きな反響を呼んだ。企業や昆布の関連団体などから協賛を得て、斬新な手法で地元の名産品の価値を発信した活動として高く評価された。

新聞広告賞

2032年の福島民報

福島民報社 「未来創造局」プロジェクト

●広告主――――福島県、東邦銀行など34社
●掲載状況――――2022年8月1日/別刷り(22ページ)、カラー
●広告活動――――カウントダウン広告、X(旧Twitter)、YouTube、ラジオ、パネル展示、投稿サイト「note」、出前授業
●企画――――福島民報社、風とロック、博報堂DYメディアパートナーズ
●制作――――福島民報社、風とロック
●扱い――――博報堂DYメディアパートナーズ、東北博報堂ほか

●企画の概要と選定理由

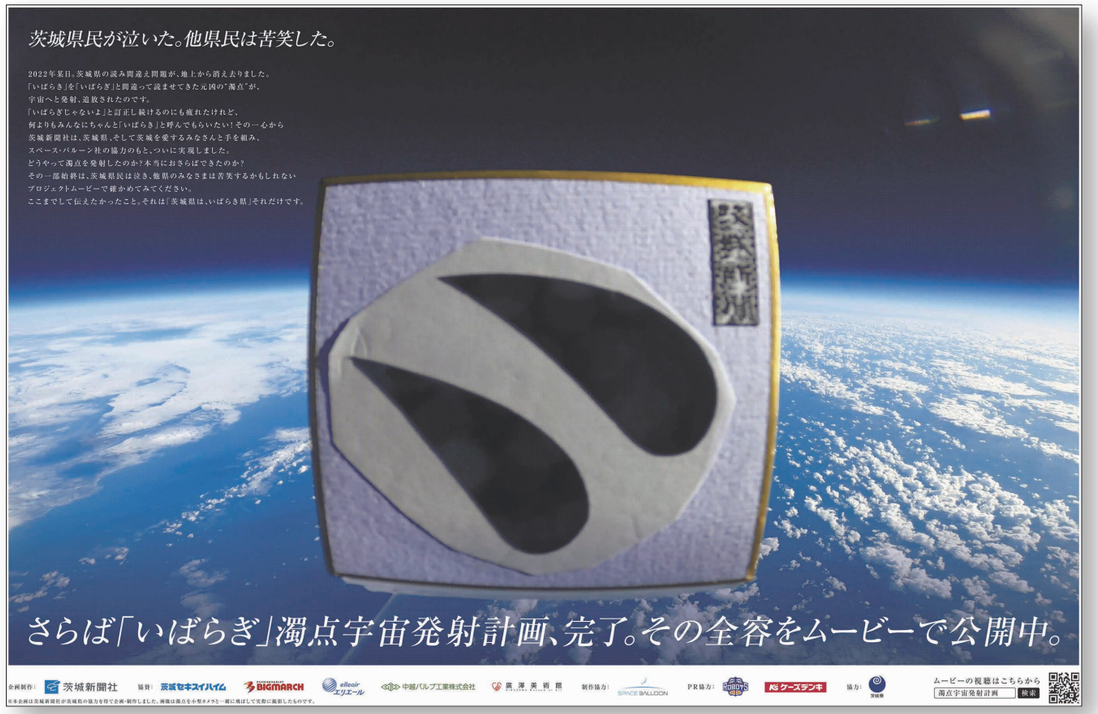
創刊130周年を記念し、社内の若手社員を中心に「未来創造局」プロジェクトを立ち上げ、10年後の福島県を描く特集紙面を発行した。福島県出身のクリエイティブディレクター箭内道彦氏を局長に迎え、2032年の視点から制作した。「第1回世界防災五輪開幕」「新規就農者2万人突破」など地域の課題を踏まえた記事とともに、技術の進化がもたらす明るい世界や新たな観光名所、食の未来などを現実性にこだわり伝えた。企画趣旨に多くの企業・団体が賛同し、未来志向の新聞広告を出稿した。新型コロナウイルスや世界での軍事衝突により将来が見通しにくい中、地域に寄り添う前向きなメッセージを発信し、県民に希望とふるさとの誇りを醸成した企画として高く評価された。

新聞広告賞

さらば「いばらぎ」濁点宇宙発射計画

茨城新聞社　東京支社

2022年10月20日付



11月11日付

◉広告主 ――― 茨城セキスイハイム、ジョイパック、大王製紙、中越パルプ工業、廣澤美術館
◉掲載状況 ――― 2022年10月20日、11月11日、11月13日、11月23日、12月2日、2023年1月12日／二連版全30段、全15段、全5段、雑報、カラー
◉広告活動 ――― YouTube、交通広告、ポスター
◉企画 ――― 茨城新聞社、電通
◉制作 ――― 電通、電通クリエーティブキューブ、大日、WOIL
◉扱い ――― 電通

◉企画の概要と選定理由

「いばらき」を「いばらぎ」と読み間違えられる長年の懸案を解決するため、新聞広告を起点に「ぎ」の濁点を宇宙へ発射して地上から追放することで認知度を高めるプロジェクトを展開した。茨城県知事による濁点を摘出する儀式を経て、宇宙産業が盛んな地域の特性を生かし、関連企業の協力を得て濁点を貼り付けた色紙を地上3万メートル超の宇宙空間まで飛ばした。発射計画の告知と完了を新聞広告で伝え、ユーチューブに全容を公開するとSNSで大きな反響を呼び、テレビ番組も相次いで取り上げた。県内外からの協賛を集め、荒唐無稽に見える企画に真剣に取り組み、地元愛を表現したユーモアあふれる活動として高く評価された。

新聞広告賞

祇園甲部歌舞練場新開場記念 柿落し公演 都をどり特集

京都新聞社　京都新聞COM事業推進局

◉広告主――八坂女紅場学園、大成建設、エアウィーヴ、西日本旅客鉄道ほか114社・団体

◉掲載状況――2023年3月20日／ラッピング12ページ、カラー

◉広告活動――『祇園甲部と都をどり～あゆみと未来～ 都をどり創始百五十年・歌舞練場新開場記念』の発行・配布・販売、ウェブサイト・SNS、ラッピング紙面の配布（舞妓さんによる街頭配布、柿落とし公演来場者）、チラシ、ポスター、屋外・交通広告、ラジオ、YouTube

◉企画――京都新聞COM、実業広告社

◉制作――京都新聞COM、京都新聞印刷、実業広告社

◉扱い――実業広告社

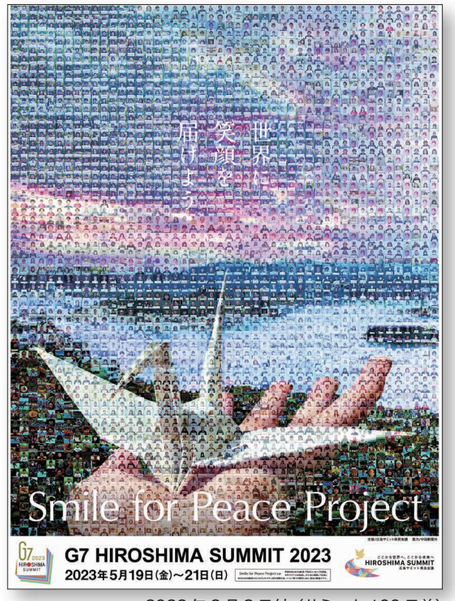
◉企画の概要と選定理由

創始150周年を迎えた京都の伝統芸能「都をどり」が、「祇園甲部歌舞練場」の大規模な改修工事やコロナ禍による休演を経て7年ぶりに開かれる機会を捉え、その魅力を伝える広告企画を展開した。京都の花街・祇園甲部所属の芸妓（げいこ）・舞妓（まいこ）が勢ぞろいした写真を見開きで掲載し、12ページのラッピング特集で都をどりの歴史や楽しみ方を紹介した。散在していた資料を集め150年史も編さんした。特設サイトやSNSを活用して読者以外へのプロモーションを実施し、公演チケットが完売するなど大きな反響を呼んだ。文化庁の京都移転のタイミングに合わせ、多くの広告主の賛同を得て地元の伝統文化の価値を新聞社の総合力を生かし発信した活動として高く評価された。

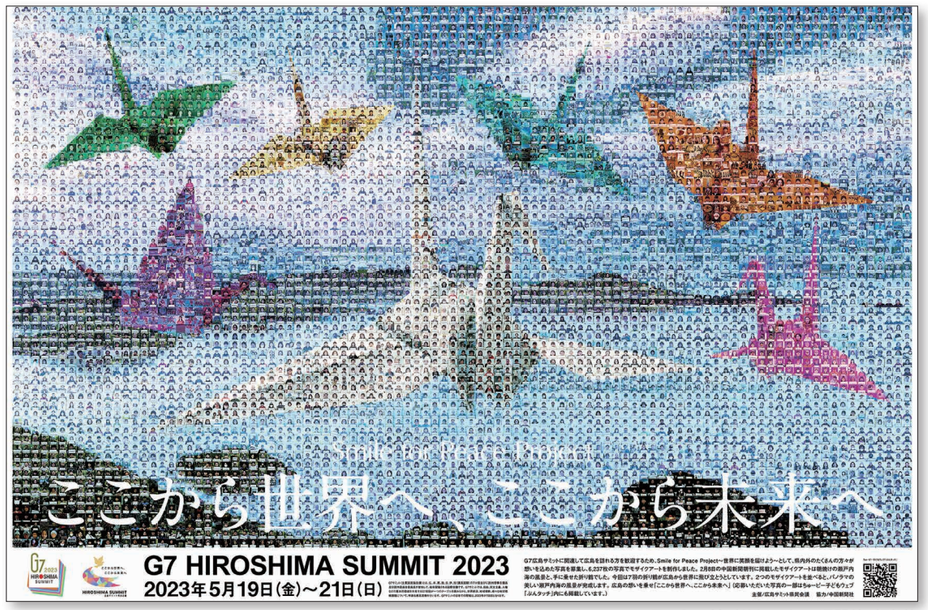
新聞広告賞

G7 広島サミット企画
「Smile for Peace Project ～笑顔を世界に届けよう～」

中国新聞社　地域ビジネス局



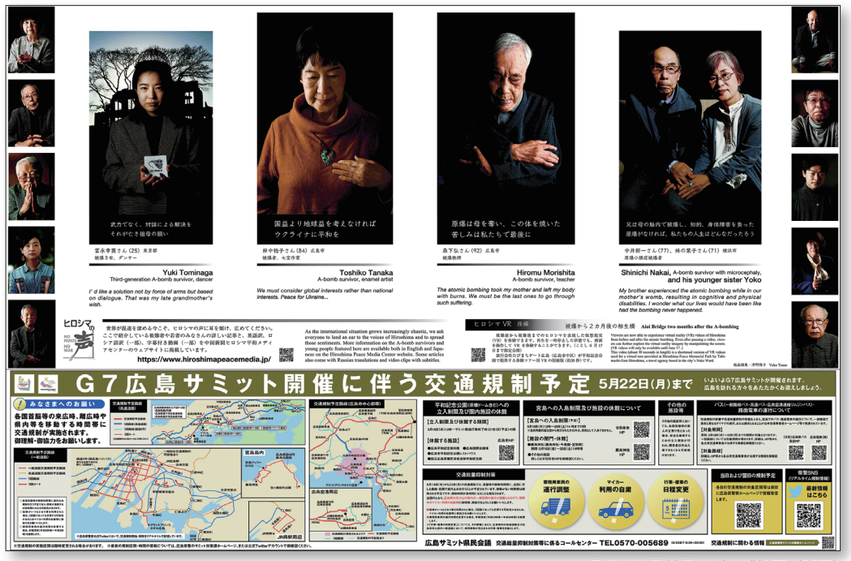
2023 年 2 月 8 日付（サミット 100 日前）



5 月 12 日付（サミット 1 週間前別刷り）

5 月 12 日付別刷り（英語版）

カウントダウン広告



5 月 19 日付ラッピング紙面（裏面）

◉広告主――広島サミット県民会議、マツダ、オタフクソース、青山商事、広島銀行、グランドプリンスホテル広島、イズミ、広島ガスなど計 68 社

◉掲載状況――2022 年 7 月 23 日から 2023 年 5 月 19 日 / ラッピング全 60 段、二連版全 30 段、全 15 段、全 5 段、別刷り（12 ページ、日本語版・英語版）、雑報、カラー

◉広告活動――モザイクアートのパネルを制作し、G7 各国や EU 大使館に提供、国際メディアセンターに掲出。国内外の来訪者および広島市内のホテルや観光案内所に別刷りを配布。

◉企画――中国新聞社地域ビジネス局

◉制作――アンプ、中国新聞社地域ビジネス局

◉扱い――電通西日本、みづま工房、三晃社、朝日広告社、廣告社、洋光、総合広告社、RCC 文化センター、エモーショナルワークス、中国新聞アドなど

◉企画の概要と選定理由

2023 年 5 月 19 ～ 21 日に被爆地・広島市で開催された先進 7 か国首脳会議に合わせ、国内外の人々にモザイクアートで平和と地域の魅力を訴える広告企画を展開した。笑顔で歓迎の意を示す県民の写真約 1 万枚を配置し、瀬戸内海の風景と折り鶴を模したモザイクアート広告を制作。サミットの 100 日前の紙面と 1 週間前の日本語版と英語版の別刷り特集に掲載し、メディア関係者や観光客などに配布した。第 1 弾の特集紙面を 300 日前に載せ、50 日前から小枠広告でカウントダウンを始め、2 日前から当日まではラッピング紙面で開催を待ち望む機運を醸成した。新聞社の総合力を結集し、多くの広告主から賛同を得て平和の尊さを伝え、サミットへの関心を高めた活動として高く評価された。